



サーバの管理

この章は、次の項で構成されています。

- [サーバロケータ LED の切り替え \(1 ページ\)](#)
- [ハードドライブのロケータ LED の切り替え \(2 ページ\)](#)
- [サーバのブート順の管理 \(3 ページ\)](#)
- [サーバの電源管理 \(18 ページ\)](#)
- [サーバのリセット \(35 ページ\)](#)
- [サーバのシャットダウン \(36 ページ\)](#)
- [DIMM のブラックリストの設定 \(37 ページ\)](#)
- [BIOS の設定 \(38 ページ\)](#)
- [製品 ID \(PID\) カタログの詳細の表示 \(48 ページ\)](#)
- [PID カタログのアップロードとアクティブ化 \(49 ページ\)](#)
- [PID カタログの削除 \(52 ページ\)](#)
- [永続メモリ モジュール \(53 ページ\)](#)

サーバロケータ LED の切り替え

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server server ID	サーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /server # set locator-led {on off}	サーバロケータ LED を有効化または無効化します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	Server /server # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、サーバロケータ LED を無効にして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # set locator-led off
Server /server *# commit

Server /server #
```

ハードドライブのロケータ LED の切り替え

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバコマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /server # scope sensor	センサー コマンドを入力します。
ステップ 3	Server /server/sensor # scope hdd	ハードディスク ドライブ (HDD) コマンドモードを開始します。
ステップ 4	Server /server/sensor/hdd # set locateHDD drivenum {1 2}	ここで、 <i>drivenum</i> は、ロケータ LED を設定するハードドライブの番号です。値 1 は LED が点灯し、値 2 は LED が消灯します。

例

次に、HDD 2 のロケータ LED を点灯する例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope sensor
Server /server/sensor # scope hdd
```

```
Server /server/sensor/hdd # locateHDD 2 1
HDD Locate LED Status changed to 1
Server /server/sensor/hdd # show
Name                Status                LocateLEDStatus
-----
HDD1_STATUS         present                TurnOFF
HDD2_STATUS         present                TurnON
HDD3_STATUS         absent                 TurnOFF
HDD4_STATUS         absent                 TurnOFF

Server /server/sensor/hdd #
```

サーバのブート順の管理

サーバのブート順

Cisco IMC を使用して、使用可能なブートデバイスタイプからサーバがブートを試行する順序を設定できます。レガシーブート順の設定では、Cisco IMC によりデバイスタイプの並び替えが許可されますが、デバイスタイプ内のデバイスの並べ替えはできません。高精度ブート順の設定により、デバイスの線形順序付けができます。Web UI または CLI では、ブート順およびブートモードの変更、各デバイスタイプ下への複数のデバイスの追加、ブート順の並び替え、各デバイスタイプのパラメータの設定ができます。

ブート順の設定を変更すると、Cisco IMC は、サーバが次にリブートされるときに、設定されたブート順を BIOS に送信します。新しいブート順を実装するには、設定の変更後にサーバをリブートします。新しいブート順は以降のリブートで反映されます。設定されたブート順は、設定が Cisco IMC または BIOS 設定で再度変更されるまで保持されます。



- (注) 次のいずれかの条件が発生すると、実際のブート順は設定されたブート順と異なります。
- 設定されたブート順を使用してブートしようとしたときに BIOS で問題が発生した。
 - ユーザが BIOS で直接、ブート順を変更した。
 - BIOS が、ホストによって認識されているがユーザから設定されていないデバイスを追加した。



重要 Cisco UCS C220 M5 または C480 M5 サーバをリリース 4.1 (1x) にアップグレードする場合は、次の条件に従います。

- 4.0 よりも前のリリースからアップグレードする場合 (4x)
- [レガシー ブート モード (Legacy Boot Mode)] が有効になっていて、[Cisco IMC のブート順序 (Cisco IMC Boot Order)] が設定されていない場合
- サーバが Cisco HWRAID アダプタから起動している場合

その後、アップグレードする前に次のいずれかを実行する必要があります。

- ここに記載されている XML API スクリプトと UCSCFG ベースのスクリプトを実行します。
- または
- Cisco IMC GUI または CLI インターフェイスを使用して、目的のブート順序を手動で設定します。



(注) ブート順の設定機能を使用して新しいポリシーを作成する場合、BIOS はこの新しいポリシーをシステムのデバイスにマッピングしようとします。実際にマッピングされたデバイス名とポリシー名が [Actual Boot Order] 領域に表示されます。BIOS が Cisco IMC の特定のポリシーにデバイスをマッピングできない場合は、実際のデバイス名が [Actual Boot Order] 領域に [NonPolicyTarget] として示されます。



(注) Cisco IMC を最新のバージョン 2.0(x) に初めてアップグレードすると、レガシーブート順は高精度ブート順に移行されます。このプロセス中に、前のブート順の設定が削除され、バージョン 2.0 にアップグレードする前に設定されたすべてのデバイスタイプが対応する高精度ブートデバイスタイプに変換され、ダミーのデバイスが同じデバイスタイプ用に作成されます。Web UI の [Configured Boot Order] 領域でこれらのデバイスを確認できます。CLI でこれらのデバイスを確認するには、**show boot-device** コマンドを入力します。この間に、サーバの実際のブート順が保持され、Web UI と CLI の実際のブート順オプション下で確認できます。

Cisco IMC を 2.0(x) よりも前のバージョンにダウングレードすると、サーバの最後のブート順が保持され、それを [Actual Boot Order] 領域で確認できます。次に例を示します。

- 2.0(x) バージョンでレガシーブート順でサーバを設定した場合、ダウングレードすると、レガシーブート順の設定が保持されます。
- 2.0(x) で高精度ブート順でサーバを設定した場合、ダウングレードすると、最後に設定したレガシーブート順が保持されます。

**重要**

- S3260 M4 サーバは、Web UI および CLI を経由するレガシー ブート順の設定と高精度ブート順の設定の両方をサポートしています。
- 2.0(x) より前のブート順の設定がレガシーブート順と見なされます。実行中のバージョンが 2.0(x) の場合、Web UI でレガシー ブート順を設定できませんが、CLI および XML API を介して設定できます。CLI で、**set boot-order HDD,PXE** コマンドを使用してこれを設定できます。CLI または XML API を介してレガシー ブート順を設定できますが、Web UI では設定されたこのブート順は表示されません。
- レガシー ブート順の機能と高精度ブート順の機能は相互に排他的です。レガシー ブート順または高精度ブート順のどちらかを設定できます。レガシーブート順を設定すると、設定されたすべての高精度ブートデバイスがディセーブルになります。高精度ブート順を設定すると、レガシー ブート順の設定が消去されます。

ブート デバイスの詳細の表示



- (注) ホストが BIOS 電源投入時自己診断テスト (POST) を実行している間は、ブート順を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /server# scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /serve/bios # show boot-device [detail]	ブートデバイスの詳細情報を表示します。

例

次に、作成したブート可能デバイスの詳細情報を表示する例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope bios
Server /server/bios # show boot-device
```

```

Boot Device          Device Type  Device State  Device Order
-----
TestUSB              USB          Enabled       1
TestPXE              PXE          Enabled       2
Server /server/bios # show boot-device detail
Boot Device TestSAN:
  Device Type: SAN
  Device State: Enabled
  Device Order: 1
  Slot Id:
  Lun Id:
Boot Device TestUSB:
  Device Type: USB
  Device State: Enabled
  Device Order: 2
  Sub Type: HDD
Boot Device TestPXE:
  Device Type: PXE
  Device State: Enabled
  Device Order: 3
  Slot Id: L
  Port Number: 1

```

高精度ブート順の設定



- (注) ホストが BIOS 電源投入時自己診断テスト (POST) を実行している間は、ブート順を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # <code>scope server {1 2}</code>	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /server# <code>scope bios</code>	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /server/bios # <code>create-boot-device</code> [デバイス名][デバイス タイプ].	BIOS がブートするブート可能デバイスを作成します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [HDD] : ハードディスク ドライブ • [PXE] : PXE ブート • SAN ブート

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • iSCSI ブート • USB • 仮想メディア • PCHStorage • UEFISHELL
ステップ 4	Server /server/bios # scope boot-device 作成したブート デバイス名。	作成したブート可能デバイスの管理を入力します。
ステップ 5	Server /server/bios/boot-device # set 値	<p>特定のブート可能なデバイスにプロパティ値を指定します。次のいずれか、または複数を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • cli : CLI オプション • state : BIOS がデバイスを認識するかどうか。デフォルトでは、デバイスはディセーブルにされています。 <p>(注) イネーブルである場合、デバイスはレガシーのブート順序の設定を上書きします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • slot : デバイスが差し込まれるスロットの ID。 • port : デバイスが装着されているスロットのポート。 • LUN : デバイスが装着されているスロットの論理ユニット。 • sub-type : 特定のデバイスタイプの下位のサブデバイス タイプ。 • order : デバイスの使用可能なリストにおけるそのデバイスの順序。
ステップ 6	Server /server/bios /boot-device # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ブート順序を設定し、ブートデバイスを作成し、新しいデバイスの属性を設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope bios
Server /server/bios # create boot-device TestPXE PXE
Server /server/bios # scope boot-device TestPXE
Server /server/bios /boot-device # set state Enabled
Server /server/bios /boot-device # set slot L
Server /server/bios /boot-device # set port 1
Server /server/server/bios /boot-device # set order 1
Server /bios /boot-device # commit
Enabling boot device will overwrite Legacy Boot Order configuration
Continue?[y|N]y
Server /server/bios /boot-device # y
Committing device configuration
Server /server/bios/boot-device # show detail
BBIOS:
  BIOS Version: server-name.2.0.7c.0.071620151216
  Backup BIOS Version: server-name.2.0.7c.0.071620151216
  Boot Order: (none)
  Boot Override Priority:
  FW Update/Recovery Status: None, OK
  UEFI Secure Boot: disabled
  Configured Boot Mode: Legacy
  Actual Boot Mode: Legacy
  Last Configured Boot Order Source: CIMC

Server /server/bios/boot-device # show boot-device detail
Boot Device TestPXE:
  Device Type: PXE
  Device State: Enabled
  Device Order: 1
  Slot Id: L
  Port Number: 1
```

次のタスク

サーバを再起動して、新しいブート順でブートします。

ブートデバイスの属性の変更



(注) ホストがBIOS電源投入時自己診断テスト (POST) を実行している間は、ブート順を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /server/bios # scope boot-device 作成したブート デバイス名。	作成したブート可能デバイスの管理を入力します。
ステップ 4	Server /server/bios /boot-device # set state {Enabled Disabled}.	デバイスをイネーブルまたはディセーブルにします。デフォルトのステートはディセーブルです。 (注) イネーブルである場合、デバイスはレガシーのブート順序の設定を上書きします。
ステップ 5	Server /server/bios /boot-device* # set order {Index 1-50}.	デバイスリストの特定のデバイスのブート順序を指定します。作成したデバイスの総数に基づいて、1 ~ 50 の範囲の数字を入力します。 (注) ブート デバイス順序を個別に設定すると、設定したとおりに順序が表示されるかの保証はありません。そのため、1 回の実行で複数のデバイスの順序を設定する場合は、 re-arrange-boot-device コマンドを使用することを推奨します。
ステップ 6	Server /server/bios /boot-device* # set port {value 1-255}.	デバイスが装着されているスロットのポートを指定します。1 ~ 255 の範囲内の数を入力してください。
ステップ 7	Server /server/bios /boot-device* # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、既存のデバイスの属性を変更する例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope bios
Server /server/bios *# scope boot-device scu-device-hdd
```

```

Server /server/bios/boot-device # set status enabled
Server /server/bios/boot-device *# set order 2
Server /server/bios/boot-device *# set port 1
Server /server/bios/boot-device *# commit
Enabling boot device will overwrite boot order Level 1 configuration
Continue?[y|N]y
Server /server/bios/boot-device #

```

デバイスのブート順序の並べ替え



(注) ホストが BIOS 電源投入時自己診断テスト (POST) を実行している間は、ブート順を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /server# scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /server/bios # rearrange boot-device [デバイス名]: [位置]。	選択したブートデバイスの順序を 1 回の実行で変更します。

例

次に、選択したブートデバイスの順序を変更する例を示します。

```

Server# scope server 1
Server /server # scope bios
Server /server/bios # rearrange-boot-device TestPXE:1,TestUSB:2
Server /server/bios # show boot-device
Boot Device          Device Type  Device State  Device Order
-----
TestPXE              PXE         Disabled     1
TestUSB              USB         Disabled     2

Server /server/bios #

```

ブート順序の設定の再適用



(注) ホストが BIOS 電源投入時自己診断テスト (POST) を実行している間は、ブート順を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # <code>scope server {1 2}</code>	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /server# <code>scope bios</code>	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /server/bios # <code>re-apply</code> .	最後に設定されたブート順の送信元が BIOS の場合は、ブート順序を BIOS に再適用します。

例

次に、BIOS にブート順序を再適用する例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope bios
Server /server/bios # re-apply
Server /server/bios #
```

次のタスク

BIOS にブート順序を再適用した後に、ホストをリブートします。

既存のブート デバイスの削除



(注) ホストが BIOS 電源投入時自己診断テスト (POST) を実行している間は、ブート順を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /server/bios # remove-boot-device デバイス名	特定のデバイスをブート順序から削除します。

例

次に、選択したデバイスをデバイス リストから削除する例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope bios
Server /server/bios # remove-boot-device scu-device-hdd
Server /server/bios #
```

UEFI セキュア ブートの概要

オペレーティングシステムをロードし実行する前に、ロードおよび実行前のすべての EFI ドライバ、EFI アプリケーション、オプション ROM またはオペレーティングシステムが確実に署名され信頼性と整合性が確認されるために、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) のセキュア ブートを使用できます。Web UI または CLI を使用して、このオプションをイネーブルにできます。UEFI のセキュア ブート モードをイネーブルにすると、ブート モードは UEFI モードに設定され、UEFI のブート モードがディセーブルになるまで、設定されているブート モードを変更できません。



- (注) サポートされていない OS で UEFI セキュア ブートをイネーブルにすると、次の再起動時に、その特定の OS から起動することはできません。前の OS から起動しようとすると、Web UI のシステム ソフトウェア イベントの下にエラーが報告され記録されます。前の OS から起動するには、Cisco IMC を使用して UEFI セキュア ブート オプションをディセーブルにする必要があります。



重要 また、サポートされていないアダプタを使用すると、Cisco IMC SEL のエラー ログ イベントが記録されます。エラー メッセージが次のように表示されます。

System Software event: Post sensor, System Firmware error. EFI Load Image Security Violation. [0x5302] was asserted .

UEFI のセキュア ブートは次のコンポーネントでサポートされます。

コンポーネント	種類
サポートされている OS	<ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2019 • Windows Server 2016 • Windows Server 2012 R2 • ESX 6.7 • ESX 6.5
QLogic PCI アダプタ	<ul style="list-style-type: none"> • 8362 デュアルポート アダプタ • 2672 デュアルポート アダプタ
Fusion-io	
LSI	<ul style="list-style-type: none"> • LSI MegaRAID SAS 9240-8i • LSI MegaRAID SAS 9220-8i • LSI MegaRAID SAS 9265CV-8i • LSI MegaRAID SAS 9285CV-8e • LSI MegaRAID SAS 9285CV-8e • LSI MegaRAID SAS 9266-8i • LSI SAS2008-8i mezz • LSI Nytro カード • UCS ストレージ用 RAID コントローラ (SLOT-MEZZ) • ホストバス アダプタ (HBA)

UEFI セキュア ブート モードの有効化または無効化

始める前に

このタスクを実行するには、`admin` としてログオンする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # <code>scope server {1 2}</code>	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /server# <code>scope bios</code>	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /server/bios # <code>set secure-boot{ enable disable }</code>	UEFI セキュア ブートを有効または無効にします。 (注) イネーブルにすると、ブートモードが UEFI セキュア モードに設定されます。UEFI セキュア ブートモードがディセーブルになるまでブートモードの設定は変更できません。
ステップ 4	(任意) Server /server/bios # <code>show detail</code>	BIOS 設定の詳細を表示します。

例

次の例は、セキュアブートを有効化または無効化し、トランザクションをコミットする方法を示しています。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope bios
Server /server/bios # set secure-boot enable
Setting Value : enable
Commit Pending.
Server /server/bios *# commit
UEFI Secure boot state changed successfully. Execute 'show detail' command to check the
current status
Server /server/bios # show detail
BIOS:
  BIOS Version: server-name.2.0.7c.0.071620151216
  Backup BIOS Version: server-name.2.0.8.0.071620152203
  Boot Order: (none)
  Boot Override Priority:
  FW Update/Recovery Status: None, OK
  UEFI Secure Boot: enabled
  Configured Boot Mode: Legacy
  Actual Boot Mode: Legacy
  Last Configured Boot Order Source: CIMC
```

```

Server /server/bios #
Server /server/bios #

erver# scope server 1
Server /server # scope bios
Server /server/bios # set secure-boot disable
Setting Value : disable
Commit Pending.
Server /server/bios *# commit
UEFI Secure boot state changed successfully. Execute 'show detail' command to check the
current status
Server /server/bios # show detail
BIOS:
  BIOS Version: server-name.2.0.7c.0.071620151216
  Backup BIOS Version: server-name.2.0.8.0.071620152203
  Boot Order: (none)
  Boot Override Priority:
  FW Update/Recovery Status: None, OK
  UEFI Secure Boot: disabled
  Configured Boot Mode: Legacy
  Actual Boot Mode: Legacy
  Last Configured Boot Order Source: CIMC
Server /server/bios #

```

次のタスク

サーバを再起動してコンフィギュレーションブートモード設定を有効にします。

サーバの実際のブート順の表示

サーバの実際のブート順とは、サーバが最後にブートされたときに BIOS によって実際に使用されたブート順です。実際のブート順は、Cisco IMC で設定されたブート順とは異なる場合があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /server# scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /server/bios # show actual-boot-order [detail]	サーバが最後に起動したときに実際に BIOS で使用されたブート順序を表示します。

例

次に、最後のブート以降のレガシーブート順序の実際のブート順序を表示する例を示します。

ワンタイム ブート デバイスでブートするようにサーバを設定する

```

Server# scope server 1
Server /server # scope bios
Server /server/bios # show actual-boot-order

Boot Order   Boot Device                                     Device Type   Boot Policy
-----
1            Cisco CIMC-Mapped vDVD1.22                     VMEDIA       NIHUUCIMCDVD
2            Cisco vKVM-Mapped vDVD1.22                     VMEDIA       dvd
3            Cisco vKVM-Mapped vHDD1.22                     VMEDIA       dvd2
4            Cisco CIMC-Mapped vHDD1.22                     VMEDIA       dvd3
5            (Bus 14 Dev 00) PCI RAID Adapter                HDD          NonPolicyTarget
6            "P1: INTEL SSDSC2BB120G4 "                     PCHSTORAGE   NonPolicyTarget
7            "UEFI: Built-in EFI Shell "                     EFI          NonPolicyTarget
8            "P0: INTEL SSDSC2BB120G4 "                     PCHSTORAGE   NonPolicyTarget
9            Cisco vKVM-Mapped vFDD1.22                     VMEDIA       NonPolicyTarget

Server /server/bios #

```

ワンタイム ブート デバイスでブートするようにサーバを設定する

現在設定されているブート順序を中断することなく、次回のサーバのブートに対してのみ、特定のデバイスから起動するようにサーバを設定できます。ワンタイムブートデバイスからサーバを起動すると、事前に設定されているブート順で以降のすべてのリブートが行われます。

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限でログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server# /bios show boot-device	使用可能なブート ドライブのリストを表示します。
ステップ 3	Server #/bios set one-time-boot-device device-order	サーバのブート順を設定します。 (注) 無効になっている拡張ブートデバイスで設定されている場合でも、ホストはワンタイムブートデバイスに対して起動します。
ステップ 4	Server# /bios * commit	トランザクションをコミットします。
ステップ 5	(任意) Server# /bios show detail	BIOS の詳細を表示します。

例

次に、ワンタイム ブート デバイスで起動するサーバを設定する例を示します。

```
Server scope bios
Server /bios # show boot-device
Boot Device                Device Type  Device State  Device Order
-----
KVMDVD                    VMEDIA      Enabled       1
vkvm                      VMEDIA      Enabled       2

Server /bios # set one-time-boot-device KVMDVD
Server /bios *# commit
Changes to BIOS set-up parameters will require a reboot.
Do you want to reboot the system?[y|N]n
Changes will be applied on next reboot.
Server /bios # show detail
BIOS:
  BIOS Version: "C240M3.3.0.0.9 (Build Date: 10/02/16)"
  Boot Order: (none)
  FW Update/Recovery Status: None, OK
  UEFI Secure Boot: disabled
  Configured Boot Mode: Legacy
  Actual Boot Mode: Legacy
  Last Configured Boot Order Source: CIMC
  One time boot device: KVMDVD
Server /bios #
```

ユーザ定義のサーバの説明とアセット タグの割り当て

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # set description <Server Description>	サーバの説明を入力します。
ステップ 3	Server /chassis* # set asset-tag <Asset Tag>	アセット タグを入力します。
ステップ 4	Server /chassis* # commit	トランザクションをコミットします。
ステップ 5	(任意) Server /chassis # show detail	サーバの詳細を表示します。

例

この例は、ユーザ定義のサーバの説明とアセット タグを割り当てる方法を示しています。

```
Server# scope chassis
Server/chassis # set description DN1-server
```

```

Server/chassis* # set asset-tag powerpolicy
Server /chassis* # commit
Server /chassis # show detail
Chassis:
  Power: on
  Serial Number: FCH1834V23X
  Product Name: UCS C220 M4S
  PID : UCSC-C220-M4S
  UUID: 414949AC-22D6-4D0D-B0C0-F7950E9217C1
  Locator LED: off
  Description: DN1-server
  Asset Tag: powerpolicy
Server /chassis #

```

サーバの電源管理

サーバの電源投入



- (注) サーバの電源が Cisco IMC 経由以外の何らかの方法でオフにされた場合、サーバは電源をオンにしてもすぐにはアクティブになりません。この場合、Cisco IMC が初期化を完了するまで、サーバはスタンバイ モードに入ります。



- 重要** ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、そのタスクが完了するまでサーバの電源を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/server # power on	サーバの電源を投入します。
ステップ 4	プロンプトで、 y を入力して確認します。	サーバの電源をオンにします。

例

この例では、サーバに電源を投入する方法を示します。

```

Server# scope chassis
Server# /chassis scope server 1
Server /chassis/server # power on
This operation will change the server's power state.
Do you want to continue with power control for Server 1 ?[y|N] y

Server /chassis/server # show
Server ID Power Serial Number Product Name PID UID
-----
-----
1 On FCH1848794D UCS S3260M4 UCSC-C3X60-SVRNB
60974271-A514-484C-BAE3-A5EE4FD16E06

Server /chassis/server#

```

サーバの電源オフ



重要 ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、そのタスクが完了するまでサーバの電源を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、**user** または **admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャード コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope server 1	サーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/server # power off	サーバの電源を切ります。
ステップ 4	プロンプトで、 y を入力して確認します。	サーバの電源を切ります。

例

この例では、サーバに電源をオフにする方法を示します。

```

Server# scope chassis
Server# /chassis scope server 1
Server /chassis/server # power off
This operation will change the server's power state.
Do you want to continue with power control for Server 1 ?[y|N] y

Server /chassis/server # show
Server ID Power Serial Number Product Name PID          UUID
-----
-----
1          Off   FCH1848794D   UCS S3260   UCSC-C3X60-SVRNB
60974271-A514-484C-BAE3-A5EE4FD16E06

Server /chassis/server#

```

サーバの電源の再投入



重要 ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、そのタスクが完了するまでサーバの電源を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <code>scope chassis</code>	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # <code>scope server 1</code>	サーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/server # <code>power cycle</code>	サーバの電源をオフにしてから、オンにします。
ステップ 4	プロンプトで、 <code>y</code> を入力して確認します。	サーバの電源をオフにしてから、オンにします。

例

次の例では、サーバの電源を再投入する方法の例を示します。

```

Server# scope chassis
Server# /chassis scope server 1
Server /chassis/server # power cycle
This operation will change the server's power state.

```

```

Do you want to continue with power control for Server 1 ?[y|N] y

Server /chassis/server # show
Server ID Power Serial Number Product Name PID UID
-----
1 On FCH1848794D UCS S3260 UCSC-C3X60-SVRNB
60974271-A514-484C-BAE3-A5EE4FD16E06

Server /chassis/server#

```

電力復元ポリシーの設定

電力復元ポリシーによって、シャーシの電力供給が失われた後、サーバに電力を復元する方法が決定されます。

始める前に

このタスクを実行するには、**admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server /server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	server /server # scope bmc	bmc コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /server/bmc # scope power-restore-policy	電力復元ポリシー コマンドを入力します。
ステップ 4	サーバ/server/bmc/power-restore-policy # set policy { power-off power-on restore-last-state }	<p>シャーシの電源が復旧した場合に実行するアクションを指定します。次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • power-off : サーバの電源は、手動で投入されるまでオフのままになります。これがデフォルトのアクションになります。 • power-on : サーバの電源は、シャーシの電源が回復したときにオンになります。 • restore-last-state : サーバの電源は、シャーシの電源が切断される前の状態に戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
		選択したアクションが power-on の場合は、サーバに対して電源を回復するまでの遅延を選択できます。
ステップ 5	(任意) Server /server/bmc/power-restore-policy # set delay { fixed random }	サーバの電源復元までの時間を固定するか、ランダムにするかを指定します。デフォルトは fixed です。このコマンドは、電力復元アクションが power-on の場合のみ使用可能です。
ステップ 6	(任意) Server /server/bmc/power-restore-policy # set delay-value delay	遅延時間を秒単位で指定します。指定できる値の範囲は 0 ~ 240 です。デフォルトは 0 です。
ステップ 7	Server /CIMC/power-restore-policy # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、180 秒（3 分）の固定遅延で電源をオンにする電力復元ポリシーを設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope bmc
Server /server/bmc # Scope power-restore-policy
Server /server/bmc/power-restore-policy # set policy power-on
Server /server/bmc/power-restore-policy *# commit
Server /server/bmc/power-restore-policy # set delay fixed
Server /server/bmc/power-restore-policy *# set delay-value 180
Server /server/bmc/power-restore-policy *# commit
Server /server/bmc/power-restore-policy # show detail
Power Restore Policy:
  Power Restore Policy: power-on
  Power Delay Type: fixed
  Power Delay Value(sec): 180

Server /server/bmc/power-restore-policy #
```

電力特性評価

シャーシの電力特性の範囲は、個々のサーバノードの電力特性の状況と、管理が不可能なすべてのシャーシ コンポーネントの所要電力から算出されます。

電力特性の範囲は構成によって異なるため、構成が変更されるたびに電力特性評価を行う必要があります。

さまざまな電力プロファイルに応じた電力特性範囲を使用できるように、シャーシの最小電力は自動プロファイルおよびカスタムプロファイルの最小電力として表されます。ただし、カスタ

ム電力プロファイルの最小電力は、現在のシャーシ構成での実際の最小所要電力です。詳細については、「電力特性評価の実行」の項を参照してください。

電力プロファイル



(注) 電源管理を行えるのは、一部の C シリーズ サーバだけです。

電力制限によって、サーバの電力消費をアクティブに管理する方法が決定されます。電力制限オプションを有効にすると、システムは電力消費をモニタし、割り当てられた電力制限未満の値に電力を維持します。サーバが電力制限を維持できない場合や、プラットフォームの電力を修正時間内に指定された電力制限に戻すことができない場合は、電力制限によって、[Power Profile] 領域の [Action] フィールドでユーザが指定したアクションが実行されます。

自動プロファイルと温度プロファイル、カスタムプロファイルと温度プロファイルという組み合わせで、複数のプロファイルを設定できます。これらのプロファイルを設定するには、Web ユーザインターフェイス、コマンドラインインターフェイス、または XML API のいずれかを使用します。Web UI では、プロファイルは [Power Capping] 領域の下にリストされます。CLI で、**power-cap-config** コマンドを入力するとプロファイルが設定されます。電力制限機能に関する次の電力プロファイルを設定できます。

- 自動電力制限プロファイル
- カスタム電力制限プロファイル
- 温度による電力制限プロファイル

自動電力制限プロファイルで個々のサーバボードの電力制限を設定する際の基準となるのは、ユーザが選択したサーバ優先順位、またはサーバ使用率センサーに基づいて、システムによって検出されたサーバ優先順位（手動/動的優先順位選択と呼ばれます）です。制限値は管理可能なシャーシ電力バジェットの範囲内で計算され、個々のサーバに適用されます。優先サーバには最大電力制限値が割り当てられ、残りの管理可能な電力バジェットが他のサーバに割り当てられます。電力制限は各サーバボードのプラットフォームレベルで適用されるため、シャーシ全体の消費電力に影響が及びます。

カスタム電力制限プロファイルは、Web UI またはコマンドライン インターフェイスから、シャーシ電力バジェットの範囲内で個々のサーバボードの電力制限を設定できます。このシナリオでは、個々のサーバの電力制限を指定することが可能です。

温度による電力プロファイルは、熱障害時の電力制限を有効にすることができます。つまり、特定のプラットフォーム温度しきい値を設定し、その温度しきい値 P (min-x) に応じて電力制限を適用できるということです。

シャーシ グローバル電力制限の有効化

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope power-cap-config	電力制限設定コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/power-cap-config # set pow-cap-enable {yes no}	電源の設定を有効または無効にします。
ステップ 4	Server /chassis/power-cap-config * # set chassis-budget 電力制限	シャーシの電力制限を設定します。
ステップ 5	Server /chassis/power-cap-config * # commit	トランザクションをシステムにコミットします。
ステップ 6	(任意) Server /chassis/power-cap-config # showdetail	シャーシの電源設定の詳細を表示します。

例

次の例では、シャーシ グローバル電力制限を有効化する方法を示します。

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope power-cap-config
Server /chassis/power-cap-config # set pow-cap-enable yes
Server /chassis/power-cap-config * # set chassis-budget 1000
Server /chassis/power-cap-config * # commit
Server /chassis/power-cap-config # show detail
Chassis :
  Power Capping: yes
  Power Characterization Status: Completed
  Chassis Minimum (W): 756
  Chassis Maximum (W): 1089
  Chassis Budget (W): 1000
  Chassis Manageable Power Budget (W): 530
  Auto Balance Minimum Power Budget (W) : 966
Server 1 :
  Power Characterization Status: Completed
  Platform Minimum (W): 163
  Platform Maximum (W): 362
  Memory Minimum (W): 1
  Memory Maximum (W): 0
  CPU Minimum (W): 95
  CPU Maximum (W): 241
Server 2 :
```

```

Power Characterization Status: Completed
Platform Minimum (W): 136
Platform Maximum (W): 253
Memory Minimum (W): 1
Memory Maximum (W): 0
CPU Minimum (W): 57
CPU Maximum (W): 139
Server /chassis/power-cap-config #

```

自動バランス プロファイルの有効化

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope power-cap-config	電力制限設定コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile auto_balance	自動バランス電源プロファイルコマンドモードを開始します。
ステップ 4	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled {yes no}	電源プロファイルを有効または無効にします。
ステップ 5	Server /chassis/power-cap-config/power-profile * # set priority-selection {dynamic manual}	優先順位のタイプを選択した値に設定します。
ステップ 6	Server /chassis/power-cap-config/power-profile * # set priority-server-id {1 2}	選択したサーバを優先順位を割り当てます。
ステップ 7	Server /chassis /power-cap-config/power-profile # set corr-time 値	Action モードで指定したアクションが実行される前に、プラットフォームの電力が指定された電力制限に戻る必要のある時間を設定します。 有効な範囲は 1 ~ 600 秒です。デフォルトは 1 秒です。
ステップ 8	Server /chassis/power-cap-config/power-profile * # set allow-throttle {yes no}	スロットリング状態 (T 状態) とメモリスロットルをプロセッサで強制的に使用させるために電力制限を維持する

	コマンドまたはアクション	目的
		ようにシステムを有効または無効にします。
ステップ 9	Server /chassis /power-cap-config# set susp-pd {h:m-h:m ll,Mo,Tu,We,Th,Fr,Sa,Su }	電力制限プロファイルがアクティブにならない時間を指定します。
ステップ 10	Server /chassis/power-cap-config/power-profile * # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 11	(任意) Server /chassis/power-cap-config/power-profile # showdetail	自動バランス電源プロファイルの詳細が表示されます。

例

次の例では、自動バランスプロファイルおよび優先順位選択項目の設定を有効にする方法を示します。

Setting Priority Using Dynamic Option

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope power-cap-config
Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile auto_balance
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled yes
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set priority-selection dynamic
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set corr-time 1
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set allow-throttle yes
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set susp-pd "2:0-4:30|All"
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# commit
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # show detail
Profile Name : auto_balance
  Enabled: yes
  Priority Selection: dynamic
  Priority Server: 2
  Server1 Power Limit: 362
  Server2 Power Limit: 253
  Suspend Period: 2:0-4:30|All
  Exception Action: alert
  Correction Time: 1
  Throttling: no
Server /chassis/power-cap-config/power-profile #
```

Setting Priority Using the Manual Option

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope power-cap-config
Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile auto_balance
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled yes
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set priority-selection manual
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set priority-server-id 1
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set corr-time 1
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set allow-throttle yes
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set susp-pd "2:0-4:30|All"
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# commit
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # show detail
Profile Name : auto_balance
```

```

Enabled: yes
Priority Selection: manual
Priority Server: 1
Server1 Power Limit: 362
Server2 Power Limit: 253
Suspend Period: 2:0-4:30|All
Exception Action: alert
Correction Time: 1
Throttling: no
Server /chassis/power-cap-config/power-profile #

```

自動バランス電源プロファイルの無効化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ2	Server /chassis # scope power-cap-config	電力制限設定モードを開始します。
ステップ3	Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile auto_balance	自動バランス電源プロファイル モードを開始します。
ステップ4	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled no	自動バランス電源プロファイルを無効にします。
ステップ5	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、自動バランス プロファイルを無効にする例を示します。

```

Server # scope chassis
Server /chassis # scope power-cap-config
Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile auto_balance
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled no
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# commit

```

Enabling Custom Profile on Server

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope power-cap-config	電力制限設定モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile custom	カスタム電力プロファイルモードを開始します。
ステップ 4	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled yes	カスタム電力プロファイルを開始します。
ステップ 5	Server /chassis /power-cap-config/power-profile # set power-limit 値	電力制限を指定します。指定した範囲内の値を入力します。
ステップ 6	Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set corr-time value	Action モードで指定したアクションが実行される前に、プラットフォームの電力が指定された電力制限に戻る必要のある時間を設定します。 有効な範囲は 1 ~ 600 秒です。デフォルトは 1 秒です。
ステップ 7	Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set allow-throttle yes	プロセッサにスロットリング状態 (T 状態) とメモリスロットルを強制的に使用させることにより、システムが電力制限を維持することを有効にします。
ステップ 8	Server /chassis/power-cap-config/power-profile * # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 9	プロンプトで、カスタム電力プロファイルを適用するサーバの ID を入力します。	
ステップ 10	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # show detail	電源プロファイルの詳細が表示されます。

例

この例では、すべてのサーバノードでカスタムプロファイルを有効にする方法を示します。

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope power-cap-config
Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile custom
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled yes
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set power-limit 253
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set corr-time 1
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set allow-throttle no
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# commit
Please enter server Id for which 'custom' power profile setting needs to be done
[1|2]?2
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # show detail
Profile Name : custom
Server Id 1:
    Enabled: no
    Power Limit: N/A
    Suspend Period:
    Exception Action: alert
    Correction Time: 1
    Throttling: no
Server Id 2:
    Enabled: yes
    Power Limit: 253
    Suspend Period:
    Exception Action: alert
    Correction Time: 1
    Throttling: yes
```

サーバでのカスタム プロファイルの無効化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャード コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope power-cap-config	電力制限設定モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile custom	カスタム電力プロファイル モードを開始します。
ステップ 4	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled no	カスタム電源プロファイルを無効にします。
ステップ 5	Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	プロンプトで、カスタム電力プロファイルを無効にするサーバの ID を入力します。	
ステップ 7	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # show detail	電源プロファイルの詳細が表示されます。

例

この例では、すべてのサーバノードでカスタムプロファイルを無効にする方法を示します。

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope power-cap-config
Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile custom
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled no
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# commit
Please enter server Id for which 'custom' power profile setting needs to be done
[1|2]?2
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # show detail
Profile Name : custom
Server Id 1:
  Enabled: no
  Power Limit: N/A
  Suspend Period:
  Exception Action: alert
  Correction Time: 1
  Throttling: no
Server Id 2:
  Enabled: no
  Power Limit: 253
  Suspend Period:
  Exception Action: alert
  Correction Time: 1
  Throttling: yes
```

サーバの温度プロファイルの有効化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope power-cap-config	電力制限設定モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile thermal	温度電力プロファイル モードを開始します。
ステップ 4	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled yes	温度電力プロファイルを有効または無効にします。
ステップ 5	Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set temperature value	指定された範囲内の電力（ワット単位）を入力します。温度は摂氏で入力します。
ステップ 6	Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 7	プロンプトで、温度電力プロファイルを有効にするサーバの ID を入力します。	
ステップ 8	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # show detail	電源プロファイルの詳細が表示されます。

例

この例では、すべてのサーバノードで温度プロファイルを有効にする方法を示します。

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope power-cap-config
Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile thermal
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled yes
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# set temperature 26
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# commit
Please enter server Id for which 'thermal' power profile setting needs to be done
[1|2]?1
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # show detail
Profile Name : thermal
Server Id 1:
  Enabled: yes
  Temperature Threshold (deg C): 26
  Power Limit: 163
```

サーバの温度プロファイルの無効化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope power-cap-config	電力制限設定モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile thermal	温度電力プロファイル モードを開始します。
ステップ 4	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled no	温度電力プロファイルを無効にします。
ステップ 5	Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 6	プロンプトで、温度電力プロファイルを無効にするサーバ ID を入力します。	
ステップ 7	Server /chassis/power-cap-config/power-profile # show detail	電源プロファイルの詳細が表示されます。

例

この例では、すべてのサーバノードで温度プロファイルを無効にする方法を示します。

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope power-cap-config
Server /chassis/power-cap-config # scope power-profile thermal
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # set enabled no
Server /chassis/power-cap-config/power-profile *# commit
Please enter server Id for which 'thermal' power profile setting needs to be done
[1|2]?1
Server /chassis/power-cap-config/power-profile # show detail
Profile Name : thermal
Server Id 1:
  Enabled: no
  Temperature Threshold (deg C): 26
  Power Limit: 163
Server Id 2:
  Enabled: no
  Temperature Threshold (deg C): 0
  Power Limit: N/A
Server /chassis/power-cap-config/power-profile #
```

電力制限設定の詳細の表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope power-cap-config	電力制限設定モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/power-cap-config # show detail	シャーシとサーバの電源特性評価ステータスが表示されます。

例

この例では、電力制限設定に関する情報を表示する方法を示します。

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope power-cap-config
Server /chassis/power-cap-config # show detail
Chassis :
  Power Capping: yes
  Power Characterization Status: Completed
  Chassis Minimum (W): 756
  Chassis Maximum (W): 1089
  Chassis Budget (W): 1000
  Chassis Manageable Power Budget (W): 530
  Auto Balance Minimum Power Budget (W) : 966
  Auto Balance Efficient Budget (W): 1901
Server 1 :
  Power Characterization Status: Completed
  Platform Minimum (W): 163
  Platform Efficient (W): 396
  Platform Maximum (W): 362
  Memory Minimum (W): 1
  Memory Maximum (W): 0
  CPU Minimum (W): 95
  CPU Maximum (W): 241
Server 2 :
  Power Characterization Status: Completed
  Platform Minimum (W): 136
  Platform Efficient (W): 584
  Platform Maximum (W): 253
  Memory Minimum (W): 1
  Memory Maximum (W): 0
  CPU Minimum (W): 57
  CPU Maximum (W): 139
Server /chassis/power-cap-config #
```

電力モニタリングの詳細の表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # show power-monitoring	電源モニタリングの詳細を表示します。

例

この例では、電力モニタリングの詳細情報を表示する方法を示します。

```
Server # scope chassis
Server /chassis # show power-monitoring
Chassis :
Current (W)  Minimum (W)  Maximum (W)  Average (W)  Period
-----
408          311          471          392          0days 9:5...
Server 1 :
Domain      Current (W)  Minimum (W)  Maximum (W)  Average (W)  Period
-----
Platform    68           61           178          68           0days 21:...
CPU         30           28           133          30           0days 21:...
Memory      1            0            1            1            0days 21:...
Server 2 :
Domain      Current (W)  Minimum (W)  Maximum (W)  Average (W)  Period
-----
Platform    97           62           200          100          1days 7:1:2
CPU         46           16           140          48           1days 7:1:2
Memory      1            0            1            1            1days 7:1:2
Server /chassis/server/pid-catalog #
```

CUPS 使用率の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # show cups-utilization	使用可能なすべての CPU のサーバ使用率値を表示します。

例

この例では、PCI スイッチの詳細を表示する方法を示します。

```

Server # scope chassis
Server /chassis # show cups-utilization
Server 1 :
CPU Utilization (%)  Memory Utilization (%)  I/O Utilization (%)  Overall Utilization
(%)
-----
0                      0                      0                      0
Server 2 :
CPU Utilization (%)  Memory Utilization (%)  I/O Utilization (%)  Overall Utilization
(%)
-----
7                      0                      0                      8

```

サーバのリセット



重要 ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、そのタスクが完了するまでサーバの電源を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope server 1	サーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/server # power hard-reset	サーバをリセット。前面パネルのリセット ボタンを押すか、IPMI リセットと同じ意味を持ちます。
ステップ 4	プロンプトで、 y を入力して確認します。	サーバをリセット。前面パネルのリセット ボタンを押すか、IPMI リセットと同じ意味を持ちます。

例

この例では、サーバハードリセットの電源を投入する方法を示します。

```
Server# scope chassis
Server# /chassis scope server 1
Server /chassis/server # power hard-reset
This operation will change the server's power state.
Do you want to continue with power control for Server 1 ?[y|N] y

Server /chassis/server # show
Server ID Power Serial Number Product Name PID UUID
-----
-----
1 Off FCH1848794D UCS S3260 UCSC-C3X60-SVRNB
60974271-A514-484C-BAE3-A5EE4FD16E06

Server /chassis/server#
```

サーバのシャットダウン



重要 ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、そのタスクが完了するまでサーバの電源を変更しないでください。

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope server 1	サーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/server # power shutdown	ホスト OS をシャットダウンし、サーバをオフにします。
ステップ 4	プロンプトで、 y を入力して確認します。	ホスト OS をシャットダウンし、サーバをオフにします。

例

次の例は、サーバをシャットダウンする方法を示します。

```
Server# scope chassis
Server# /chassis scope server 1
Server /chassis/server # power shutdown
This operation will change the server's power state.
Do you want to continue with power control for Server 1 ?[y|N] y

Server /chassis/server # show
Server ID Power Serial Number Product Name PID UUID
-----
1 Off FCH1848794D UCS S3260 UCSC-C3X60-SVRNB
60974271-A514-484C-BAE3-A5EE4FD16E06

Server /chassis/server#
```

DIMM のブラックリストの設定

DIMM のブラックリスト化

Cisco IMC で、デュアルインラインメモリモジュール (DIMM) の状態は、SEL イベントレコードに基づいています。BIOS が BIOS ポスト中のメモリテスト実行時に 16000 のエラー件数を伴う修正不可能なメモリエラーまたは修正可能なメモリエラーに遭遇した場合、DIMM は不良と判断されます。不良と判別された DIMM は機能しないデバイスと見なされます。

DIMM のブラックリスト化を有効にすると、Cisco IMC はメモリテスト実行メッセージをモニタし、あらゆる時点で DIMM SPD データ内でメモリエラーに遭遇した DIMM をブラックリストに載せます。これにより、ホストはこれらの DIMM をマップから外すことができます。

DIMM は、修正不可能なエラーが発生した場合にのみマッピング解除またはブラックリスト化されます。DIMM がブラックリスト化されると、同じチャネル上にある他の DIMM が無視されるかディセーブルとなり、その DIMM は不良として見なされなくなります。



(注) DIMM は、16000 の修正可能なエラーの場合はマッピング解除またはブラックリスト化されません。

DIMM のブラックリストのイネーブル化

始める前に

管理者としてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /server # scope dimm-blacklisting /	DIMM ブラックリスト モードを開始します。
ステップ 3	Server /server/dimm-blacklisting # set enabled {yes no}	DIMM ブラックリストをイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	Server /server/dimm-blacklisting* # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、DIMM のブラックリストをイネーブルにする例を示します。

```
Server # scope server 1
Server /server # scope dimm-blacklisting
Server /server/dimm-blacklisting # set enabled yes
Server /server/dimm-blacklisting* # commit
Server /server/dimm-blacklisting #
Server /server/dimm-blacklisting # show detail

DIMM Blacklisting:
  Enabled: yes
Server /server/dimm-blacklisting #
```

BIOS の設定

BIOS ステータスの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /sever # scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /sever/bios # show detail	BIOS ステータスの詳細を表示します。

BIOS ステータス情報には、次のフィールドが含まれます。

名前	説明
BIOS Version	実行中の BIOS のバージョン文字列。
バックアップ BIOS のバージョン	BIOS のバックアップバージョンのストリング。
Boot Order	サーバが使用を試行する、ブート可能なターゲットタイプのレガシーブート順序。
Boot Override Priority	None または HV のいずれかを選択できます。
FW Update/Recovery Status	保留中のファームウェアアップデートまたは回復アクションのステータス。
UEFI Secure Boot	UEFIセキュアブートを有効または無効にします。
Configured Boot Mode	BIOS がデバイスのブートを試行するブートモード。
Actual Boot Mode	BIOS がデバイスを起動した実際のブートモード。
Last Configured Boot Order Source	BIOS が最後に設定したブート順序送信元。

例

次に、BIOS ステータスを表示する例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /server # scope bios
Server /server/bios # show detail
Server /server/bios # show detail
BIOS:
  BIOS Version: server-name.2.0.7c.0.071620151216
  Backup BIOS Version: server-name.2.0.7c.0.071620151216
  Boot Order: (none)
  Boot Override Priority:
  FW Update/Recovery Status: None, OK
  UEFI Secure Boot: disabled
  Configured Boot Mode: Legacy
  Actual Boot Mode: Legacy
  Last Configured Boot Order Source: CIMC
Server /server/bios #
```

主要な BIOS の設定

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /server # scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /server /bios # scope main	主要な BIOS 設定コマンドモードを開始します。
ステップ 4	Server /server /bios # set TPMAdminCtrl {Disbaled Enabled}	TPM のサポートを有効または無効にします。
ステップ 5	Server /server /bios/main # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。 変更内容は次のサーバのリブート時に適用されます。サーバの電源が投入されている場合、すぐにリブートするかどうかを質問されます。

例

メインの BIOS パラメータを設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
Server /server # scope server 1
Server/server # scope bios
Server /server/bios # scope main
Server /server/bios/main # set TPMAdminCtrl Enabled
Server /server/bios/main *# commit
Changes to BIOS set-up parameters will require a reboot.
Do you want to reboot the system?[y|N] n
Changes will be applied on next reboot.
Server /server/bios/main #
```

BIOS の詳細設定

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	Server /sever # scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /sever/bios # scope advanced	高度な BIOS 設定コマンドモードを開始します。
ステップ 4	BIOS 設定を設定します。	サーバ モデル別 BIOS パラメータ
ステップ 5	Server /sever/bios/advanced # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。 変更内容は次のサーバのリポート時に適用されます。サーバの電源が投入されている場合、すぐにリポートするかどうかを質問されます。

例

すべてのUSBドライブを有効にし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
Server# scope server 1
Server/sever # scope bios
Server /sever/bios # scope advanced
Server /sever/bios/advanced # set AllUsbDevices Enabled
Server /sever/bios/advanced *# commit
Changes to BIOS set-up parameters will require a reboot.
Do you want to reboot the system?[y|N] n
Changes will be applied on next reboot.
Server /sever/bios/advanced #
```

サーバ管理 BIOS の設定

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /sever # scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /sever/bios # scope server-management	サーバ管理 BIOS 設定コマンドモードを開始します。
ステップ 4	BIOS 設定を設定します。	サーバ モデル別 BIOS パラメータ

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	Server /sever/bios/server-management # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。 変更内容は次のサーバのリブート時に適用されます。サーバの電源が投入されている場合、すぐにリブートするかどうかを質問されます。

例

この例では、OS ウォッチドッグタイマーを有効にし、トランザクションをコミットします。

```
Server# scope bios
Server /sever # scope bios
Server /sever/bios # scope server-management
Server /sever/bios/server-management # set OSBootWatchdogTimer Enabled
Server /sever/bios/server-management *# commit
Changes to BIOS set-up parameters will require a reboot.
Do you want to reboot the system?[y|N] n
Changes will be applied on next reboot.
Server /sever/bios/server-management #
```

BIOS デフォルトの復元

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /sever # scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /sever/bios # bios-setup-default	BIOS のデフォルト設定を復元します。 このコマンドでは、リブートが開始されます。

例

次の例は、BIOS デフォルト設定を復元します。

```
Server# scope bios
Server/sever # scope bios
Server /sever/bios # bios-setup-default
This operation will reset the BIOS set-up tokens to factory defaults.
All your configuration will be lost.
Changes to BIOS set-up parameters will initiate a reboot.
Continue?[y|N]y
```

BIOS セットアップの開始

始める前に

- サーバの電源が投入されている。
- このタスクを実行するには、admin権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	Server # scope server {1 2}	サーバ1または2のサーバコマンドモードを開始します。
ステップ2	Server /sever # scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ3	Server /sever/bios # enter-bios-setup	リブート時にBIOSセットアップを開始します。

例

次に、BIOS セットアップを開始できるようにする例を示します。

```
Server# scope server 1
Server /sever # scope bios
Server /sever/bios # enter-bios-setup
This operation will enable Enter BIOS Setup option.
Host must be rebooted for this option to be enabled.
Continue?[y|N]y
```

BIOS の工場出荷時のデフォルト設定への復元

BIOS のコンポーネントが正常に動作しない場合、BIOS セットアップ トークンを工場出荷時のデフォルト値に復元できます。

始める前に

- このタスクを実行するには、admin権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- サーバの電源をオフにする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /sever # scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /sever/bios # restore-mfg-defaults	セットアップ トークンを工場出荷時のデフォルト値に復元します。

例

次に、BIOS セットアップ トークンを工場出荷時のデフォルト値に復元する例を示します。

```
Server # scope bios
Server /sever/bios # restore-mfg-defaults
This operation will reset the BIOS set-up tokens to manufacturing defaults.
The system will be powered on.
Continue? [y|n] y
Server /sever/bios #
```

BIOS プロファイル

Cisco UCS サーバでは、デフォルトのトークンファイルはすべてのサーバプラットフォームに使用可能で、グラフィックユーザインターフェイス (GUI)、CLI インターフェイス、および XML API インターフェイスを使用して、これらのトークンの値を設定できます。サーバパフォーマンスを最適化するには、これらのトークン値を特定の組み合わせで設定する必要があります。

BIOS プロファイルを設定すると、正しい組み合わせのトークン値で事前設定されたトークンファイルを使用できます。使用可能な事前設定されたプロファイルには、仮想化、高性能、低電力などがあります。シスコの Web サイトからこれらの事前設定されたトークンファイルのさまざまなオプションをダウンロードして、BMC を使用してサーバに適用できます。

ダウンロードしたプロファイルを編集して、トークンの値を変更したり、新しいトークンを追加したりできます。これにより、応答時間を待機する必要なく、プロファイルを自分の要件に合うようにカスタマイズできます。

BIOS プロファイルの有効化

始める前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限でログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server# /bios scope bios-profile	BIOS プロファイル コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server# /bios/bios-profile activate virtualization	BIOS の設定をバックアップするように求めるメッセージが表示されます。 y と入力します。
ステップ 4	BIOS のセットアップパラメータの変更を適用するためシステムを再起動するように求められます。 y と入力します。	システムの再起動を開始します。

例

次に、指定した BIOS プロファイルをアクティブにする例を示します。

```
Server # scope bios
Server /bios # scope bios-profile
Server /bios/bios-profile # activate virtualization
It is recommended to take a backup before activating a profile.
Do you want to take backup of BIOS configuration?[y/n] y
backup-bios-profile succeeded.
bios profile "virtualization" deleted
Changes to BIOS set-up parameters will require a reboot.
Do you want to reboot the system?[y|N]y
A system reboot has been initiated.
Server /bios/bios-profile #
```

BIOS プロファイルのバックアップの取得

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限でログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server# /bios scope bios-profile	BIOS プロファイル コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server# /bios/bios-profile backup	BIOS プロファイルのバックアップが成功したというメッセージが表示されます。

例

この例は、BIOS プロファイルをバックアップします。

```
Server # scope bios
Server /bios # scope bios-profile
Server /bios/bios-profile # backup
backup-bios-profile succeeded.
Server /bios #
```

BIOS プロファイルの削除

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限でログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server# /bios scope bios-profile	BIOS プロファイルコマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server# /bios/bios-profile delete BIOS profile	指定した BIOS プロファイルを削除します。

例

この例では、指定した BIOS プロファイルを削除します。

```
Server # scope bios
Server /bios # scope bios-profile
Server /bios/bios-profile # delete performance
Server /bios/bios-profile #
```

BIOS プロファイルの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server# /bios show bios-profile	すべての BIOS プロファイルを表示します。

例

次に、BIOS プロファイルを表示する例を示します。

```
Server # scope bios
Server /bios # show bios-profile
ID      Name                Active
-----
1       performance            yes
2       virtualization         no
3       none                    no
4       cisco_backup            no
Server /bios #scope bios-profile
Server /bios #
```

BIOS プロファイルの情報の表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server# /bios scope bios-profile	すべての BIOS プロファイルを表示します。
ステップ 3	Server# /bios/bios-profile info performance	トークンの名前、プロファイル値、およびアクティブな値など BIOS プロファイルの情報を表示します。

例

この例では、指定した BIOS プロファイルの情報を表示します。

```
Server # scope bios
Server /bios # scope bios-profile
Server /bios/bios-profile # info performance

TOKEN NAME                PROFILE VALUE    ACTUAL VALUE
=====
TPMAdminCtrl              Enabled          Enabled
ASPMsupport                Disabled        Disabled
Server /bios/bios-profile #
```

BIOS プロファイルの詳細の表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンドモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	Server# /bios scope bios-profile	BIOS プロファイルコマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server# /bios/bios-profile show detail	BIOS プロファイルの詳細が表示されます。

例

次に、BIOS プロファイルの詳細を表示する例を示します。

```
Server # scope bios
Server /bios # scope bios-profile
Server /bios/bios-profile # show detail
Active Profile: Virtualization
Install Status: bios profile install done
Server /bios/bios-profile #
```

製品 ID (PID) カタログの詳細の表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/server # show cpu-pid	CPU PID の詳細を表示します。
ステップ 4	Server /chassis/server # show dimm-pid	メモリ PID の詳細を表示します。
ステップ 5	Server /chassis/server # show pciadapter-pid	PCIアダプタ PID の詳細を表示します。
ステップ 6	Server /chassis/server # show hdd-pid	HDD PID の詳細を表示します。

例

次に、PID の詳細を表示する例を示します

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope server 1
Viewing CPU PID details
Server /chassis/server # show cpu-pid
Socket Product ID Model
```

```
-----
CPU1   UCS-CPU-E52660B      Intel(R) Xeon(R) CPU E5-2660 v2 @ 2.2...
CPU2   UCS-CPU-E52660B      Intel(R) Xeon(R) CPU E5-2660 v2 @ 2.2...
```

Viewing memory PID details

```
Server /chassis/server # show dimm-pid
```

Name	Product ID	Vendor ID	Capacity	Speed
DIMM_A1	UNKNOWN	NA	Failed	NA
DIMM_A2	UNKNOWN	NA	Ignore...	NA
DIMM_B1	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_B2	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_C1	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_C2	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_D1	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_D2	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_E1	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_E2	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_F1	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_F2	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_G1	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_G2	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_H1	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866
DIMM_H2	UCS-MR-1X162RZ-A	0xCE00	16384 MB	1866

Viewing PCI adapters PID details

```
Server /chassis/server # show pciadapter-pid
```

Slot	Product ID	Vendor ID	Device ID	SubVendor ID	SubDevice ID
1	UCSC-MLOM-CSC-02	0x1137	0x0042	0x1137	0x012e

Viewing HDD PID details

```
Server /chassis/server # show hdd-pid
```

Disk	Controller	Product ID	Vendor	Model
1	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
2	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
3	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
4	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
5	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
6	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
7	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
8	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
9	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
10	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
11	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
12	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
13	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
14	SBMezz1	UCSC-C3X60-HD6TB	SEAGATE	ST6000NM0014
201	SBMezz1	UCSC-C3X60-12SSD	ATA	INTEL SSD...
202	SBMezz1	UCSC-C3X60-12SSD	ATA	INTEL SSD...

```
Server /chassis/server #
```

PID カタログのアップロードとアクティブ化



注意 PID カタログがアクティブになると、BMC が自動的に再起動します。

PID カタログをアクティブ化した後、サーバを再起動する必要があります。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope pid-catalog	サーバ PID カタログ コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/pid-catalog # upload-pid-catalog remote-protocol IP アドレス <i>PID</i> カタログ ファイル	リモート サーバに接続するためのプロトコルを指定します。次のいずれかのタイプを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • TFTP • FTP • SFTP • SCP • HTTP

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) Cisco UCS C シリーズ サーバでは、リモートサーバからファームウェアを更新したときの、サーバのフィンガープリントの確認をサポートするようになりました。このオプションは、リモートサーバタイプとして SCP または SFTP を選択した場合にのみ使用できます。</p> <p>このアクションを実行しながら、リモートサーバタイプとして SCP または SFTP を選択した場合、「Server (RSA) key fingerprint is <server_finger_print_ID> Do you wish to continue?」というメッセージが表示されます。サーバフィンガープリントの信頼性に応じて、[y] または [n] をクリックします。</p> <p>フィンガープリントはホストの公開キーに基づいており、接続先のホストを識別または確認できます。</p> <p>PID カタログのアップロードを開始します。</p>
ステップ 4	(任意) Server /chassis/pid-catalog # show detail	アップロードのステータスが表示されます。
ステップ 5	Server /chassis/pid-catalog # exit	シャシー コマンド モードに戻ります。
ステップ 6	Server /chassis # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 7	Server /chassis/server # scope pid-catalog	サーバ PID カタログ コマンド モードを開始します。
ステップ 8	Server /chassis/server/pid-catalog # activate	アップロードされた PID カタログをアクティブにします。
ステップ 9	(任意) Server /chassis/server/pid-catalog # showdetail	アクティベーションのステータスが表示されます。

例

次に、PID カタログをアップロードし、アクティブにする例を示します。

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope pid-catalog
Uploading PID catalog
Server /chassis/pid-catalog # upload-pid-catalog tftp 10.10.10.10
pid-ctlg-2_0_12_78_01.tar.gz
upload-pid-catalog initialized.
Please check the status using "show detail".
Server /chassis/pid-catalog # show detail
    Upload Status: Upload Successful
Activating the uploaded PID catalog
Server /chassis/pid-catalog # exit
Server /chassis # scope server 2
Server /chassis/server # scope pid-catalog
Server /chassis/server/pid-catalog # activate
Successfully activated PID catalog
Server /chassis/server/pid-catalog # show detail
    Upload Status:
    Activation Status: Activation Successful
    Current Activated Version: 2.0(12.78).01
Server /chassis/server/pid-catalog #
```

PID カタログの削除



注意 PID カタログが削除されると、BMC が自動的に再起動します。

PID カタログを削除した後、サーバを再起動する必要があります。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope server {1 2}	サーバ 1 または 2 のサーバ コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /chassis/server # scope pid-catalog	サーバ PID カタログ コマンド モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	Server /chassis/server/pid-catalog # delete	確認プロンプトで [y] と入力し、アップロードした PID カタログを削除します。 (注) PID カタログは、以前に更新およびアクティブ化されている場合にのみ削除できます。
ステップ 5	(任意) Server /chassis/server/pid-catalog # showdetail	PID カタログのステータスを表示します。

例

次に、PID カタログをアップロードし、アクティブにする例を示します。

```
Server # scope chassis
Server /chassis # scope server 2
Server /chassis/server # scope pid-catalog
Server /chassis/server/pid-catalog # delete
CIMC will be automatically rebooted after successful deletion of the uploaded catalog file.
Once this is complete, a host reboot will be required for the catalog changes to be reflected in the BIOS and host Operating System Continue?[y|N]y
Server /chassis/server/pid-catalog # show detail
PID Catalog:
  Upload Status: N/A
  Activation Status: N/A
  Current Activated Version: 4.1(0.41)
Server /chassis/server/pid-catalog #
```

永続メモリ モジュール

永続メモリ モジュール

Cisco UCS S シリーズ リリース 4.0(4) は、Intel® Optane™ Data Center 永続メモリ モジュール (第二世代インテル® Xeon® Scalable プロセッサに基づく UCM M5 サーバ上) のサポートを導入します。永続メモリ モジュールは、第二世代インテル® Xeon® Scalable プロセッサでのみ使用できます。

永続メモリ モジュールは、メモリの低遅延とストレージの永続化を実現する不揮発性メモリ モジュールです。永続メモリ モジュールに保存されているデータは、他のストレージデバイスに比べてすぐにアクセスでき、電源サイクルで保持されます。

永続メモリ モジュールの設定の詳細については、『[Cisco UCS: Intel® Optane™ Data Center 永続メモリモジュールの設定と管理](#)』を参照してください。

